

市民公開講座

まずい棒で復活を目指せ！

銚子電鉄の竹本社長から
そのフロンティアスピリッツを学んで、
地域づくりに役立てよう

講師 (敬称略)

竹本 勝紀 (銚子電気鉄道株式会社 代表取締役)

座長 (敬称略)

惣ト 清光 (河北医療財団 あいクリニック事務長)





奇跡のぬれ煎餅

～小さな煎餅が鉄道を救った～



銚子電鉄は千葉県最東端の銚子市を走る、全長僅か 6.4km の小さな私鉄です。
そんな鉄道会社が販売している「ぬれ煎餅が起こした奇跡の実話」をご紹介します。

銚子電鉄は過疎化による人口減少や、観光客の減少により年々乗客数が減り、行政からの補助金で何とか運行を維持している状態でした。

昭和 30 年代に年間 250 万人以上いた乗客は、平成に入ると 100 万人を切り、いつ廃線になるかと不安を抱えながら仕事をしていました。

平成 18 年、恐れていたことが現実になりました。

当時の社長に横領が発覚。その額は 1 億円を超え、すでに行政からの補助金は打ち切りになっており、倒産の危機が目の前に迫ってきました。

しかも、時を同じくして国土交通省の監査が入り、老朽化した線路や踏切の改善・修理の命令も出されました。3 カ月以内に線路・踏切などの改修をしなければ運行停止。それには約 5,000 万円もの費用が必要で、会社にとってこれは“死刑宣告”とでも言うべきものでした。

そのうえ車両の法定検査（自動車の車検のようなもの）が 1 カ月後に迫り、費用は 1,000 万円。これら多額の費用は月間運賃収入が 900 万円の赤字会社がとても確保できる額ではありません。

社員の給料さえも全額払えない状況で、この時の通帳残高は僅かに 200 万円。

銀行からの追加融資も元社長の横領問題で望めず、会社存続は絶望的な状況でした。

それでも何とかしなければならぬ…

出来る事といえば、数年前より製造・販売を開始した副業の「ぬれ煎餅」を売ることでした。

電車を走らせるために、「買って下さい、買って下さい。」来る日も来る日も必死になって売り歩きましたが、そう簡単に売れるものではありません。現実の厳しさを思い知らされました。

「本当にこんなことに意味があるのか？」「私達が思うほどに銚子電鉄は必要とされてないのか？」

そんな思いが頭をよぎり、やる気を失いかけていました。

もうダメかと諦めかけていたある日の朝、パソコンを開くと、膨大な数のメールが 2,000…3,000 件…！「ぬれ煎餅」のご注文が今までに見たことがないようなペースで入り続けていました。

一瞬、わが目を疑いました。一体これはどういうことなのだろう…？

実は 3 日前の夜、「もはや残された時間はあと数日、このままでは完全に資金ショートを起こしてしまう。何かしなければ。」… そう思った時にふと思いついたのが、インターネットでぬれ煎餅の購入を呼びかけることでした。「ぬれ煎餅を買って下さい。電車修理代を稼がなくちゃいけないんです。」という言葉が自然と頭に浮かび、思わずホームページに書き込みをしたのです。

この書き込みを見た多くの方がインターネットの掲示板やブログ（日記）などで、「ぬれ煎餅の購入」を呼び掛けてくれたためでした。

そのメッセージに 10 日間で 10,000 人以上のお客様が共感してくれたのです。

その後テレビなどにも取り上げられ、ぬれ煎餅は爆発的な売上げを記録しました。

この売上げにより「車輛の法定検査」や「老朽化施設の改修」などの費用を賄うことができました。これはまさに思いもよらぬ「奇跡」でした。

そして、ご注文をいただいた多くのお客様からメッセージが添えられていました。

「年金生活なので、これが精一杯の買い物でした。ごめんなさい…。」

「彼女との初デートに銚子電鉄を利用しました。その時、僕が緊張しているのを見た車掌さんが話しかけてくれ、二人を和ませてくれました。その時の彼女は、今僕の妻です。子供も二人できました。僕達を結びつけた銚子電鉄、あの時の優しい車掌さん、今度は僕が助ける番です。」

「子供達がお金を出し合いお煎餅を注文しました。銚子電鉄がんばれ！」

「私が小さい頃、去年亡くなった母と銚子電鉄に乗った大変楽しい思い出があります。優しかった母との思い出の一部がなくなってしまうのは悲しいです。絶対に守ってください。ずっと応援します。」

メッセージを読んでいると涙が溢れてきました。「ありがとうございます。ありがとうございます。」ただ感謝の言葉しか思い浮かびませんでした。

私は「苦しいときに助けを求めることは、恥ずかしいことではない」ということを学びました。あの時、ホームページにぬれ煎餅の購入を呼びかけて本当に良かったと思っています。

もし呼びかけていなければ、もう銚子電鉄は確実に廃線となっていたことでしょう。

また、このような奇跡が起きることもありませんでしたし、お客様の温かい気持ちを知る機会もなかったと思います。

そして今は「多くの人からいただいた温かい想いを、自分達がどれだけ返せるか！」「人のためになれるか！」「このご恩は返さなければいけない！」と強く思っています。

だから、私達は電車を走らせ続け、「電車に乗って楽しかった」と思って頂けるように、そして「このぬれ煎餅を食べた人が美味しかった」と、一時でも幸せになれるように、これからも全力を尽くします。

また、この話を読んでいただいたお客様が、「人の心の温かさ」や「諦めない気持ち」、「困った時は素直に助けを求める」など、現代社会の人達が忘れかけたものを思い出し、「人と人との温かいつながり」が増えるきっかけになれば嬉しいです。

今でもぬれ煎餅をご購入していただいたお客様から「電車大丈夫？」と心配されたり、「電車運行がんばって！」と激励を受けたりしています。お客様に恵まれ本当に幸せです。これからも、様々な問題がおこるかもしれませんが、従業員一丸となってがんばっていきます。

